

やさしい社会を明石から

～ハードも大事、ハートも大事～

平成29年12月4日

かぞくねっと「明石市における福祉の動向について」

明石市長 泉 房穂

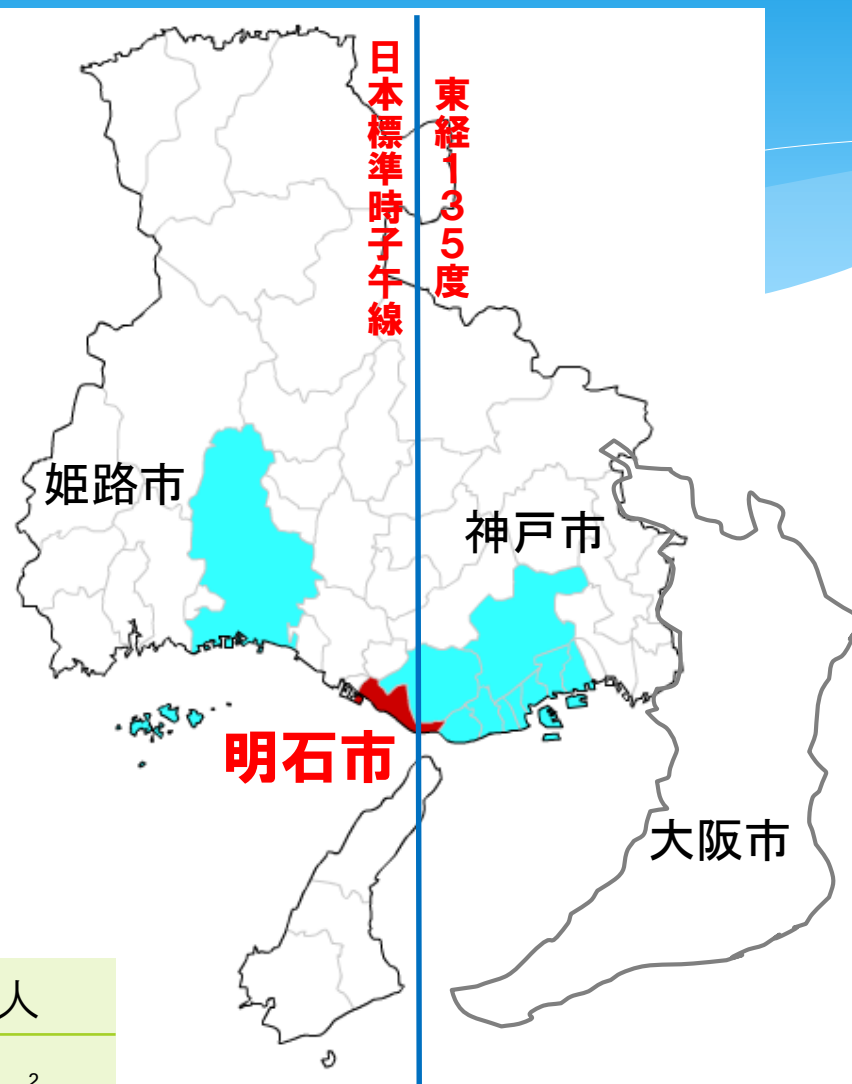
弁護士・社会福祉士

自己紹介

明石市長 泉 房穂(いずみ ふさほ)

- 1963年 明石市生まれ
- 弁護士
- 社会福祉士
- 元衆議院議員
- 元NHKディレクター
- 2011年より明石市長（現在2期目）
- 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人

明石市のご紹介



人口 約 29万人

面積 約 49 km²

誰もが暮らしやすいまちの実現に向けた 5つのSTEP



STEP
5

誰もが
暮らしやすいまちへ



STEP
4

合理的配慮への公的助成

STEP
3

障害者差別解消条例の制定

STEP
2

多様なコミュニケーションの促進

STEP
1

手話言語の確立



STEP

1

STEP

2

「明石市手話言語・障害者コミュニケーション条例」

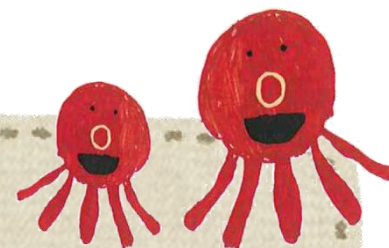
手話言語
条例



情報
コミュニケーション
条例

明石市の

手話言語・障害者
コミュニケーション条例



STEP

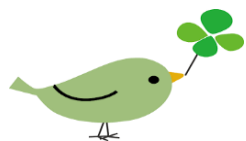
3

STEP

4

「明石市障害者配慮条例」

障害者に対する配慮を促進し誰もが
安心して暮らせる共生のまちづくり条例



障害者差別解消法に合わせて
平成28年4月1日スタートしました

特徴は 「合理的配慮の促進」



STEP

3

STEP

4

明石市障害者配慮条例を予算とセットで制定

- ◎条例名に「差別」を使わず
「配慮」「共生のまちづくり」を使用
- ◎障害者差別に関する相談体制の整備
- ◎障害者差別の解消を支援する地域協議会の設置

合理的配慮の提供を支援する助成制度について

明石市では、障害のある人もない人もともに安心して暮らせる共生のまちづくりを推進していくために、事業者や地域の団体が障害のある人に必要な合理的配慮を提供するためにかかる費用を助成する。

1 制度を利用できる団体

- ① 事業者など民間の事業者
- ② 自治会など地域の団体
- ③ サークルなどの民間団体

2 助成の対象になるもの

合理的配慮が簡単に提供できるようにするためのもので、以下にあたるもの



コミュニケーションツールの作成

点字メニュー
チラシの音訳
コミュニケーションボードなど



上限額 → 5万円

物品の購入

折りたたみ式スロープ
筆談ボードなど



上限額 → 10万円

工事の施工

簡易スロープや手すりなどの
工事の施工に
かかる費用



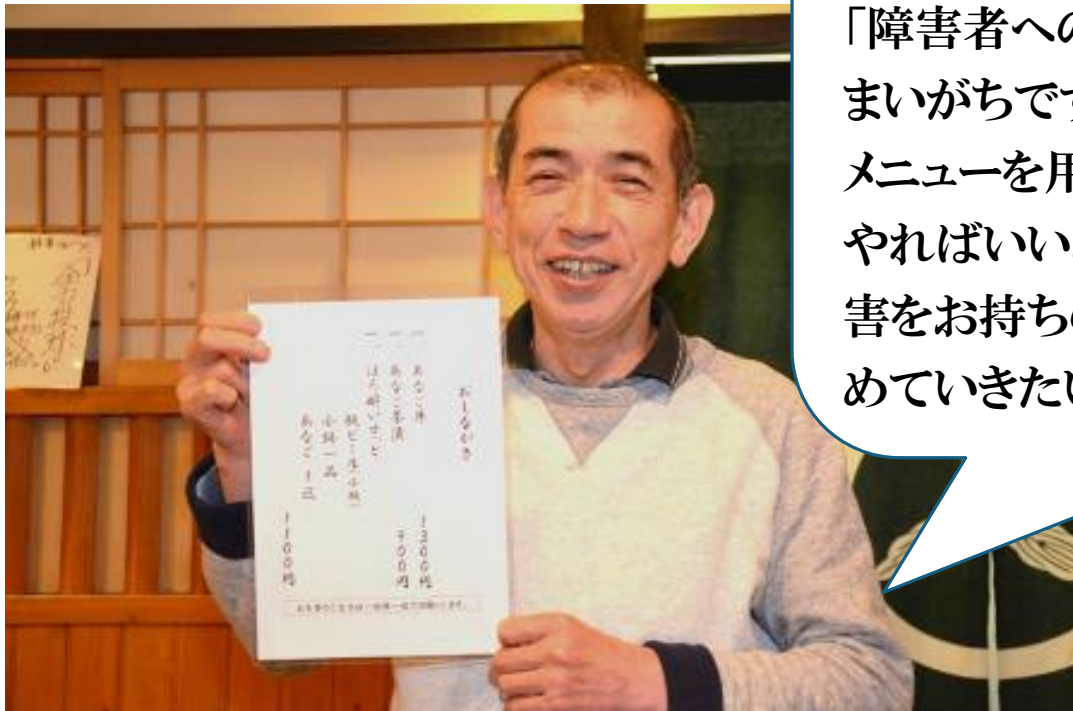
上限額 → 20万円

STEP

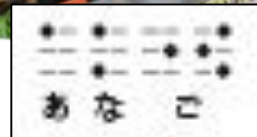
4

明石のまちが変わります

去年参加した条例検討会で、視覚障害のある人の声を直接聞くことができました。「障害者への配慮」と聞くと難しいことと考えてしまいがちですが、例えば点字が読める人に点字メニューを用意するなど、できることをやればよいと気づきました。これからは、他の障害をお持ちの方に対しても、できる配慮から始めていきたいと思っています。



株式会社 林喜商店 代表取締役社長 林 祝雄さん
(筆談ボードと点字メニューを導入)



STEP

4

明石のまちが変わります



● ● ● ●
● ● ● ●
● ● ● ●
け ー き

くるみや本店
入口に折りたたみ式スロープを設置して
車イスもベビーカーも入りやすくなりました。
(筆談ボード・点字メニュー・
折りたたみ式スロープを導入)



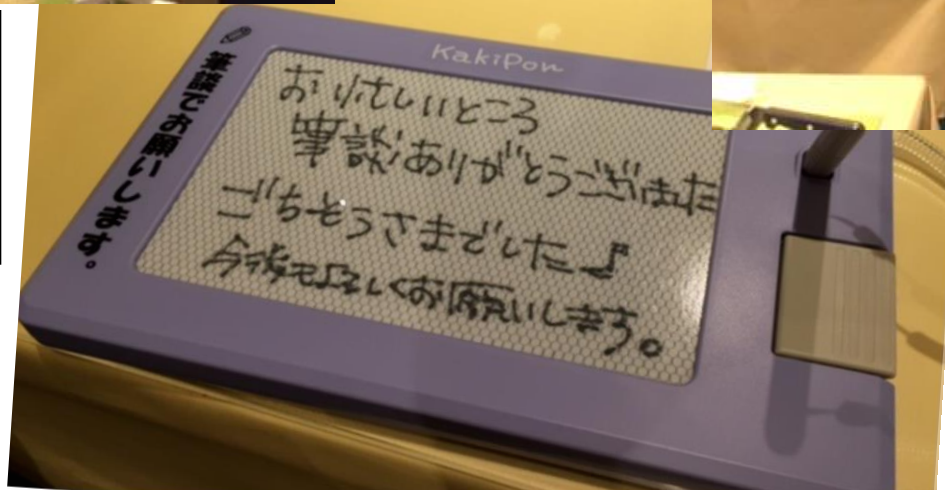
STEP

4

明石のまちが変わります



イタリアンレストランで
筆談ボードを利用して
料理の説明を受ける
聴覚障害者



STEP
5

誰もが暮らしやすいまちへ

「やさしいB-1 グランプリつくり隊」発足式に出席した
障害者や支援団体メンバーら＝明石市中崎1で



県立明石公園である
ご当地グルメによるま
ちおこしの祭典「西日
本B-1グランプリ」
（11月25、26
日）へ向け、障害者や
支援者らで構成する
「やさしいB-1グ
ランプリつくり隊」
の発足式が25日、明石
市役所であった。障害
者や高齢者も、誰もが
会場で楽しく過ごせ
るよう案内・誘導の

工夫、出展団体の料
理を食べる方法など
について意見を交わし
た。発足式には、明石市
の障害当事者等団体連
絡協議会、NPO法人
明石障がい者地域生活
ケアネットワーク、神
戸市の障害者支援団体
・NPO法人ウィズア
スなどから計約30人が
出席した。

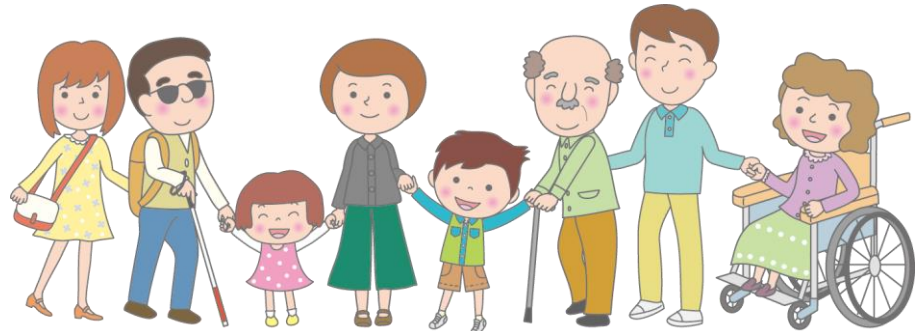
障害者や高齢者向けの
「やさしい総合案内所」
を設けて案内、同行な
どの支援に取り組むほ
か、手話通訳者の配置
や点字のプログラム・
メニューの配布なども
実施する。明石市社会
福祉協議会の山下孝光
副理事長は「市民、来
場者も含め、幅広いサ
ポートを期待したい」
と話している。

【浜本年弘】

やさしいB-1に

障害者ら参加「つくり隊」発足式 明石

- ・やさしいB-1グランプリin明石を開催
「やさしいB-1 つくり隊」発足
- ・障害のある人もない人も、子どもから
お年寄りまで、**すべての人が楽しめる**
B-1グランプリを開催(11月25日26日)
- ・障害者団体もボランティアでおもてなし



STEP

5

誰もが暮らしやすいまちへ

・更生支援

失敗しても、やり直せる
「おかえりなさい」のまちへ



- ・ 更生支援ネットワーク会議の創設
- ・ 更生支援フェアの開催
- ・ 法務省のモデル事業スタート



H29.7.1更生支援フェア
講師 江川 紹子氏

・犯罪被害者支援

- ・賠償金立替制度の創設など
- ・「すべての市民」のためのセーフティネット施策

犯罪被害者支援条例改正案を可決



可決した条例改正案について感想を述べる被害者団体のメンバー—明石市役所で

明石市、自治体で全国初
 損害金を立て替え

明石市議会は20日、犯罪被害者やその遺族を支援する条例の改正案を、賛成多数で可決した。加害者が支払うべき損害賠償金を支援金として立て替え払いできることなどを盛り込んでおり、来年4月1日に施行する。市によると、自治体の立て替え金制度は全国で初という。

例を改正した。故意の犯罪で被害者が死亡したり重度の障害を負った場合、訴訟などで確定した賠償金のうち上限300万円までを市が立て替え払いできる。立て替えた金は市が加害者に請求。また、介護や一時保育などの費用も補助する。

条例改正では、被害者支援団体など意見交換を続けてきた。可決後に市役所で会員した全国犯罪被害者の会（あすの会）代表幹事代行、林良平さん（60）は「こうした条例が全国の標準になることを強く望む」と期待した。同会副代表幹事で、神戸連続児童殺傷事件で次男を亡くした土師守さん（67）も「立て替え金以外でも着実に進んだ条例」と評価した。【駒崎秀樹】

STEP

5

誰もが暮らしやすいまちへ

・里親100%プロジェクト

ト



平成29年10月9日あかし里親フォーラム
明石こども大使の川嶋あいさん

ホームドアの取り組み ～まちが一丸となって～

- 平成28年9月 明石市視覚障害者福祉協会からの請願を
市議会全会一致で採択
明石市障害者当事者団体連絡協議会から
明石市への要望書提出
- 10月 市に公共交通安全対策担当を配置
明石市議会、市から国土交通大臣に
要望書を提出
- 12月 市議会、市、商工会議所からJR西日本に
要望書と障害者団体の署名を提出

ホームドアの取り組み ～まちが一丸となって～

新 戸 新 聞 2016年(平成28年)12月28日 水曜日

目標超す1万1308人の署名 市民の後押しに感謝

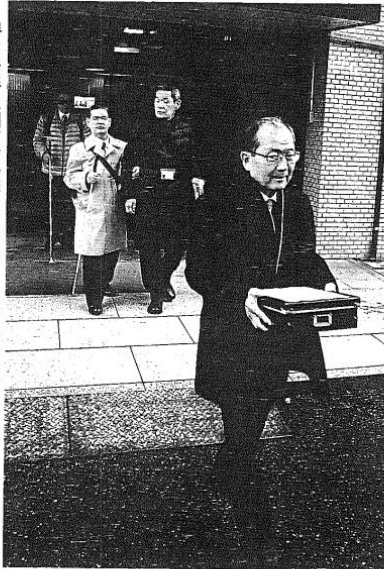
駅のホームドア

JR明石駅などにホームドアの早期設置を求め、JR西日本に27日渡された1万1308人分の署名。提出した明石市障害者当事者等団体連絡協議会の松本幸雄代表(右)は「目標の5千人分を大きく上回った。市民の大きな後押しに感謝したい」と話した。

(社会面参照)

同協議会は11月6日、同駅周辺で署名活動を開始。各障害者関係団体も個別に活動し、目標を大きく上回る署名を集めた。署名では、ホームドア設置完了までは、駅員に車までの安全な誘導や放送なども求めている。

この日は、同市視覚障害者福祉協会の浅生晴彦



署名を手にも明石市役所を出発する松本幸雄代表(右端)と浅生晴彦会長(右から3人目)ら(いずれも中崎1)

晴彦会長(64)らがJR西本社(大阪市)を訪問。同様の要望書を提出した泉房穂市長、深山昌明市議会議長、平岡勝功明石商工会議所会頭らも同席した。

出席者はJR明石駅について、死亡事故の発生や視覚障害者の利用の多き、貨物列車の通過などの危険性を指摘。泉市長は、整備費など相応の負担を行う考えを示した上で、「市制100年を迎える2019年度までの整備」を要望した。市によると、JR側は「できるだけ速やかに実現するため、明石市の担当者と調整したい」と前向きな姿勢をみせた。一方で、昇降式の

ホーム柵など具体的な整備方式や時期については言及しなかった。

松本代表は「熱心に話を聞いてもらった。危険性は認識してくれているので期待したい」。浅生会長は「署名の箱はどれも重かった。重みが何よりの説



JR西日本に提出した1万1308人分の署名

得力になると話していた。(藤井伸哉)

共生社会ホストタウンに向けて

障害者団体連絡協議会 との意見交換会

平成29年8月

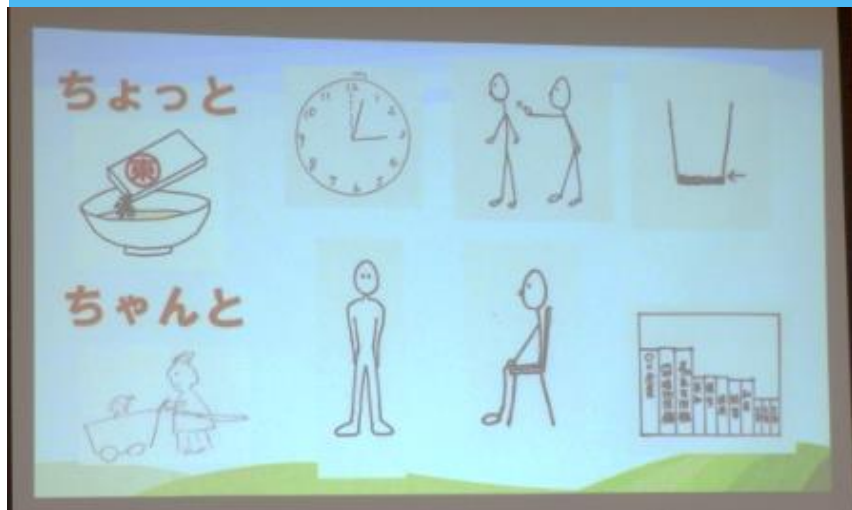


市と障害当事者等団体連絡協議会（通称「あすく」）との意見交換会に夏休みこども市長室特別見学会の小学生たちが一部参加。

共生社会ホストタウンに向けて

職員を対象に知的障害者について理解する研修を開催

平成29年10月



支援団体の方を講師に、市の職員が知的障害の疑似体験を通じて知的障害者への対応の仕方を学び、市役所内の作業所に通所する当事者のお話を聞かせていただいた

共生社会ホストタウンに向けて

2017～
(大会開催まで)

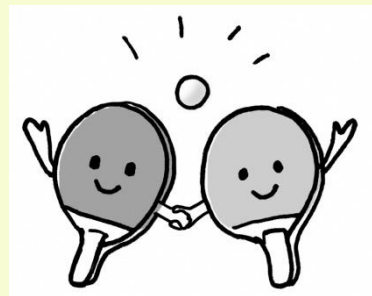
2020
(大会中)

2020～
(大会直後～)

パラリンピックを契機とした「共生社会」の実現

「まち」と「心」のバリアフリーを推進し「やさしいまち」を更に深化

パラアスリート、相手国との交流



- ▶ パラアスリートによる講演会
- ▶ 小中学生など、こどもとの競技体験交流
- ▶ 文化を知り、体験する相互交流の実施
- ▶ 大会出場選手の激励、競技の応援



バリアフリーの推進

- ▶ 市民をはじめ、明石からユニバーサルマナーの向上を拡大
- ▶ 公的施設、民間施設など、まちのバリアフリー化の促進



こどもの頃からの思い

『支援が必要な すべての人に、
その人が支援を必要とする時に
必要な支援を みんなで』

支援が必要なすべての人に、
その人が支援を必要とする時に
必要な支援を みんなで

1. 支援の対象：すべての人
2. 支援の責任：社会
3. 支援の視点：本人
4. 支援の内容：あれもこれも

支援が必要なすべての人に、
その人が支援を必要とする時に
必要な支援を みんなで

5. 支援の方法:より早く、より広く、より近く、より深く

①ワンストップ

②チームアプローチ

③アウトリーチ

市長としての思い

- ①障害者が暮らしやすい社会をつくる
のは行政の責任
- ②できることを見つけて、実際に始める
- ③福祉の充実をまちの発展につなげる

障害者が暮らしやすい社会を 作るのは行政の責任

なくてはならない施策をするのは誰の責任？

✕ 障害者の自己責任

○ 行政の責任... 国だけではなく市



責任者は市長

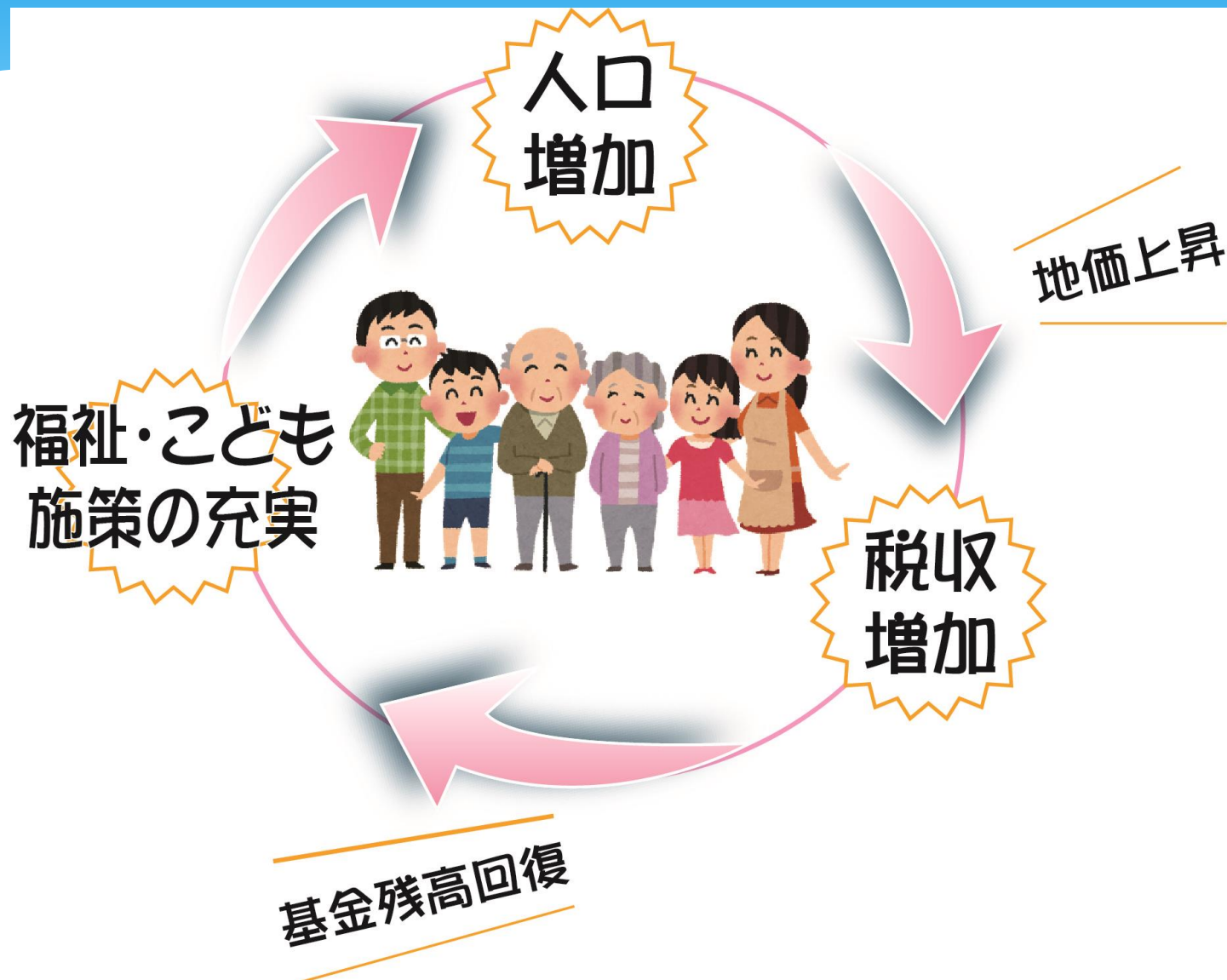
明石市から社会を変える

- ①現場 VS 政治
- ②国 VS 県 VS 市
- ③先進的 VS 普遍性

福祉のまちづくりに必要なこと

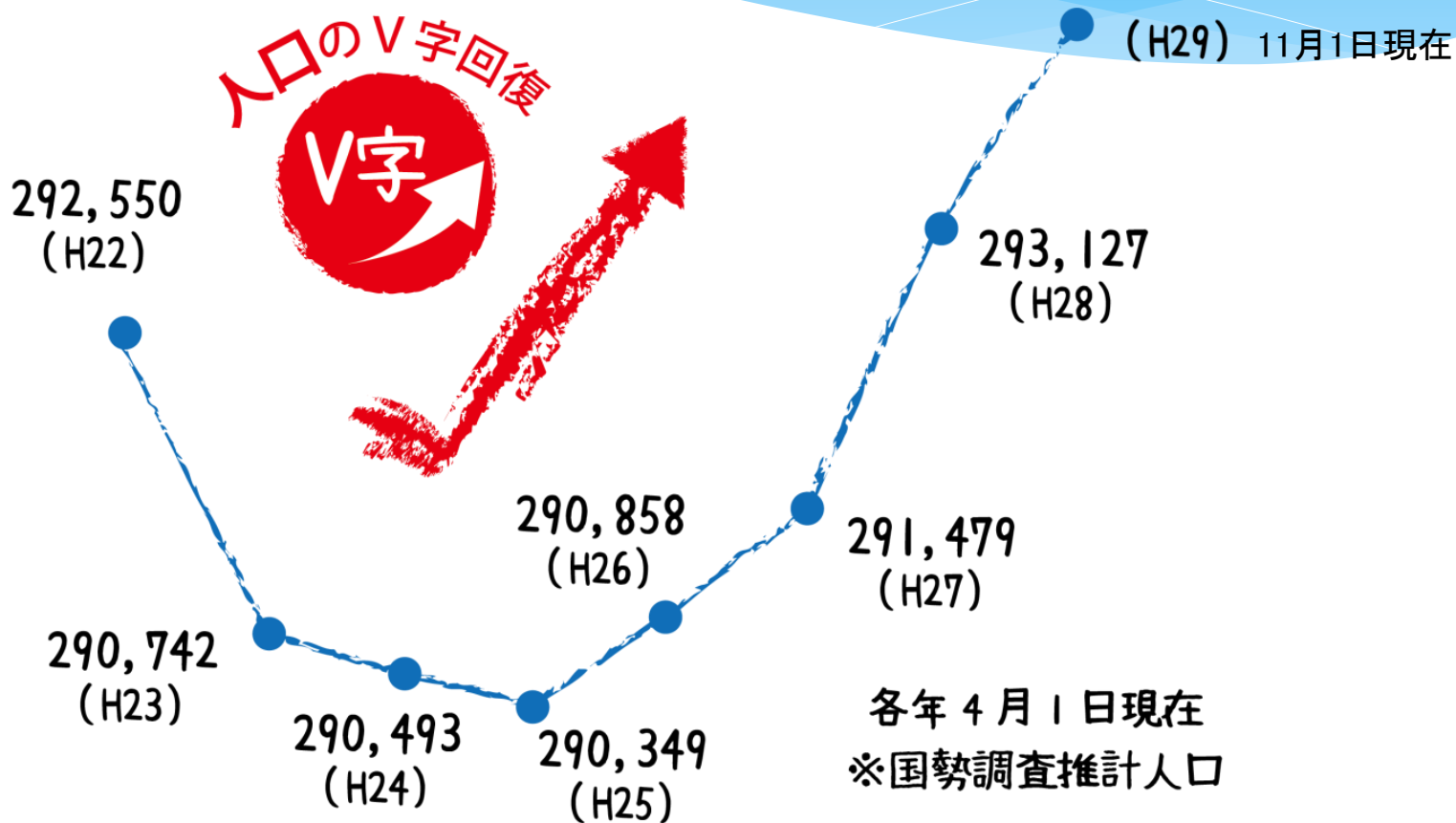
- ①大義
- ②ひと
- ③カネ
- ④連携
- ⑤みんなの理解

福祉の充実をまちの発展につなげる

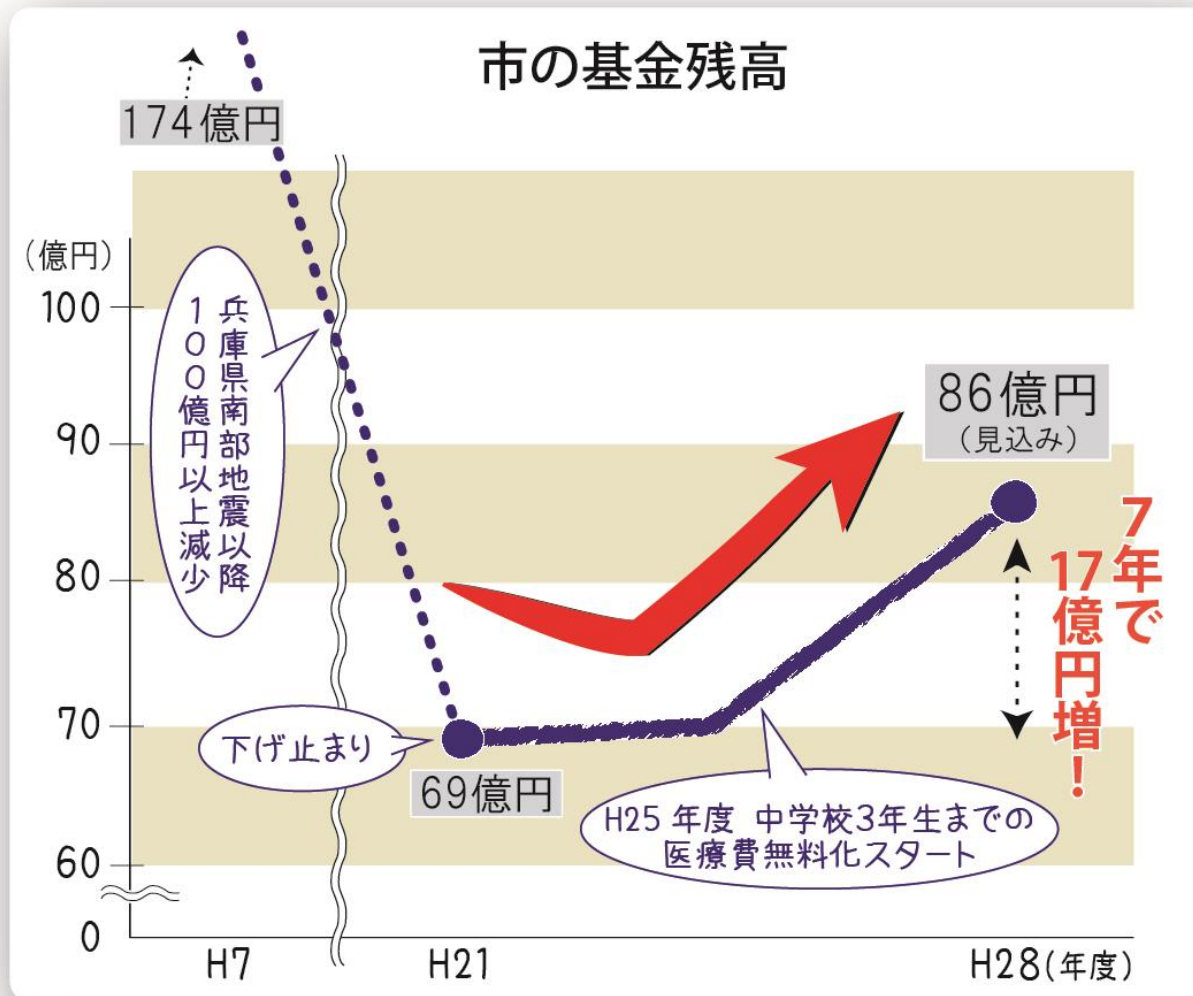


福祉の充実をまちの発展につなげる

296,192人



福祉の充実をまちの発展につなげる



社会の「あたりまえ」を変える

障害者も暮らしやすくなるように、
社会全体の「あたりまえ」を
変えていきましょう！

「福祉を世の光に」

～私たちのまちは、もっとやさしくなれる～

ともに頑張りましょう！

障害の
ある人

支援者

行政

障害の
ない人

事業者

